-大学院歯学独立研究科-
第　１２８　回　中　間　発　表　会　プ　ロ　グ　ラ　ム
第　３５・３６　回　テ　ー　マ　発　表　会　プ　ロ　グ　ラ　ム

大学院学生等が、これまでの研究成果を発表します。
どなたでも聴講できますので、多数の参加をお待ちしております（聴講申込不要）

場　所：実習館２階　総合歯科医学研究所セミナー室
日　時：　・第 128 回中間発表会・第 35 回テーマ発表会
2023 年 7 月 26 日（水）17 時 25 分　開会
・第 36 回テーマ発表会
2023 年 8 月 23 日（水）17 時 25 分　開会

―2023 年 7 月 26 日（水）―

No.	発表区分･予定時間	演題名･発表者	審査委員
	17:25	開会挨拶　平岡研究科長	
1	［中　間］ 17:30～18:00 司会:樋口教授	「欠損補綴治療介入患者に対する機能評価および患者立脚型アウトカムの関連　―主咀嚼側と非主咀嚼側の機能評価の差異について―」 柴田　幸成　　顎口腔機能制御学講座　臨床機能評価学	主査:金銅教授 副査:増田(裕)教授 :栗原教授
2	［テーマ］ 18:00～18:10 司会:亀山教授	「各種ユニバーサルアドヒーシブの溶媒揮発が微小引張強さと重量変化に及ぼす影響」 高坂　怜子　　健康増進口腔科学講座　口腔健康分析学	-

―2023 年 8 月 23 日（水）―

No.	発表区分･予定時間	演題名･発表者	審査委員
	17:25	開会挨拶　平岡研究科長	
1	［テーマ］ 17:30～17:40 司会:影山准教授	「不正咬合者の随意的口唇閉鎖調節能力」 張　璐瑶　　硬組織疾患制御再建学講座　臨床病態評価学	-

問合わせ先：本館２階　学事室（大学院）内線 2012

発表内容の要旨（課程博士）
Abstract of Presented Research (For the Doctoral Course)

学籍番号 Student ID No.	ID#G 2008	入学年 Entrance Year	2020 年 Year
（ふりがな）	しばた こうせい		
氏名 Name in Full	柴田 幸成		
専攻分野 Major Field	顎口腔機能制御学講座 臨床機能評価学		
主指導教員 Chief Academic Advisor	樋口 大輔		
発表会区分 Type of Meeting	中間発表会・ 大学院研究科発表会 ・ 松本歯科大学学会 Midterm Meeting / Graduate school research meeting presentation /The Matsumoto Dental University Society		

演題名 / Title of Presentation

欠損補綴治療介入患者に対する機能評価および患者立脚型アウトカムの関連
－主咀嚼側と非主咀嚼側の機能評価の差異について－

発表要旨 / Abstract

【目的】

健康や QOL(Quality of Life)に関する国民の意識の向上に伴い，質の高い医療だけでなく，治療効果を客観的に評価し，患者に呈示する，いわゆる科学的根拠に基づく医療が求められている．現在，保険収載もされているグミゼリーを用いた咀嚼機能検査では，主咀嚼側のみで患者の咀嚼機能を評価することが提唱されている．しかし，欠損歯列患者においては，その欠損様式には様々な形態があり，主咀嚼側と非主咀嚼側の機能的差異については不明な点も多い．そこで本研究は欠損補綴に対する補綴治療介入前後での主咀嚼側および非主咀嚼側における咀嚼機能の変化と口腔関連 QoL の関連を検証することを目的とした．

【方法】

被験者として松本歯科大学病院補綴科を受診した有床義歯による補綴治療を行った患者のうち，研究同意を得られた 32 名を動員した．その内，上下顎全部床義歯による治療を行った患者が 11 名(71.9±10.2歳)，片顎全部床義歯による治療を行った患者が6名(69.3±7.0歳)，部分床義歯による治療を行った患者は12名(73.0±9.3歳)でこれらの患者に対して，補綴治療介入の前後にグミゼリーを用いた主咀嚼側および非主咀嚼側それぞれにおける咀嚼機能検査によるグルコース溶出量(mg/dl)の測定および，Oral Health Impact Profile 短縮版(OHIP-14)による口腔関連 QoL のアンケートを実施し，その変化を調査した．なお，本研究は松本歯科大学倫理委員会の承認を得て行った(承認番号 339 号)．

【結果】

研究基準を満たさない 3 名を除外し，29 名についてみると咀嚼機能検査では，主咀嚼側では術前平均 124.6 mg/dl から術後平均 159.6 mg/dl に上昇し，非主咀嚼側では術前平均 93.8 mg/dl から術後平均 150.9 mg/dl に上昇し，それぞれの部位において改善傾向にあった．同様に OHIP-14 サーマリースコアは術前平均 15.1 から術後平均 11.9 に改善傾向にあった．

上下顎全部床義歯装着患者の咀嚼機能検査では，主咀嚼側では術前平均 105.4mg/dl から術後平均 139.9mg/dl に上昇し，非主咀嚼側では術前平均 79.9mg/dl から術後平均 110.8 mg/dl に上昇し，それぞれの部位において改善傾向にあった．同様に OHIP-14 サーマリースコアは術前平均 20.0 から術後平均 15.7 に改善傾向にあった．片顎全部床義歯装着患者の咀嚼機能検査では，主咀嚼側では術前平均 122.0mg/dl から術後平均 164.3mg/dl に上昇し，非主咀嚼側では術前平均 91.5mg/dl から術後平均 182.8 mg/dl に上昇し，それぞれの部位において改善傾向にあった．しかし,OHIP-14 サーマリースコアは術前平均 7.5 から術後平均 9.5 に悪化傾向にあった．部分床義歯装着患者の咀嚼機能検査では，主咀嚼側では術前平均 143.5mg/dl から術後平均 175.3mg/dl に上昇し，非主咀嚼側では術前平均 107.6mg/dl から術後平均 171.7mg/dl に上昇し，それぞれの部位において改善傾向にあった．同様に OHIP-14 サーマリースコアは術前平均 14.3 から術後平均 9.6 に改善傾向にあった．

【考察】

一般に咀嚼機能検査時には主咀嚼側を対象として行っているが，本研究において，可撤性有床義歯による補綴治療介入を行った被験者において非主咀嚼側においても主咀嚼側と同様に咀嚼機能の改善を認める傾向にあった．以上より欠損歯列患者の術前後を評価する縦断的な咀嚼機能検査では，非主咀嚼側も含めて，総合的に判断する必要性が示唆された．